

平成 26 年 3 月 13 日

保護者様

尼崎市立立花西小学校
校長 米田 浩

平成 25 年度 全国学力・学習状況調査の概況について

本市において、平成 16 年度から実施してまいりました「学力・生活実態調査」を平成 24 年度で終了し、本年度から、市内 5 年生全員を対象にした「学習到達度調査」を実施いたしました。

なお、全国平均との比較等につきましては、平成 25 年 4 月に実施しました 6 年生対象の「全国学力・学習実態調査」の結果に基づいて記載しております。

1 各教科の概要（平均正答率の全国平均との比較）

【国語 A：主として知識】では、3.2 ポイント上回っています。

【国語 B：主として活用】では、5.8 ポイント上回っています。

【算数 A：主として知識】では、5.6 ポイント上回っています。

【算数 B：主として活用】では、4.6 ポイント上回っています。

2 各教科の設問別の状況（全国平均との比較）

【国語 A】設問別では、ほとんどの設問で全国を上回っています。「漢字を読む」においては、1.1 ~ 11.3 ポイント上回っています。また、「文の定義の理解」で 12.3 ポイント上回っています。

【国語 B】全国を大きく上回っている設問が多く、「引用して書く」では、15 ポイント上回っています。さらに、「二つの文を比べて読む」では、18.3 ポイントも上回っており、校内研究で「書くこと」をテーマに研究を進めている成果が表れていると思われます。

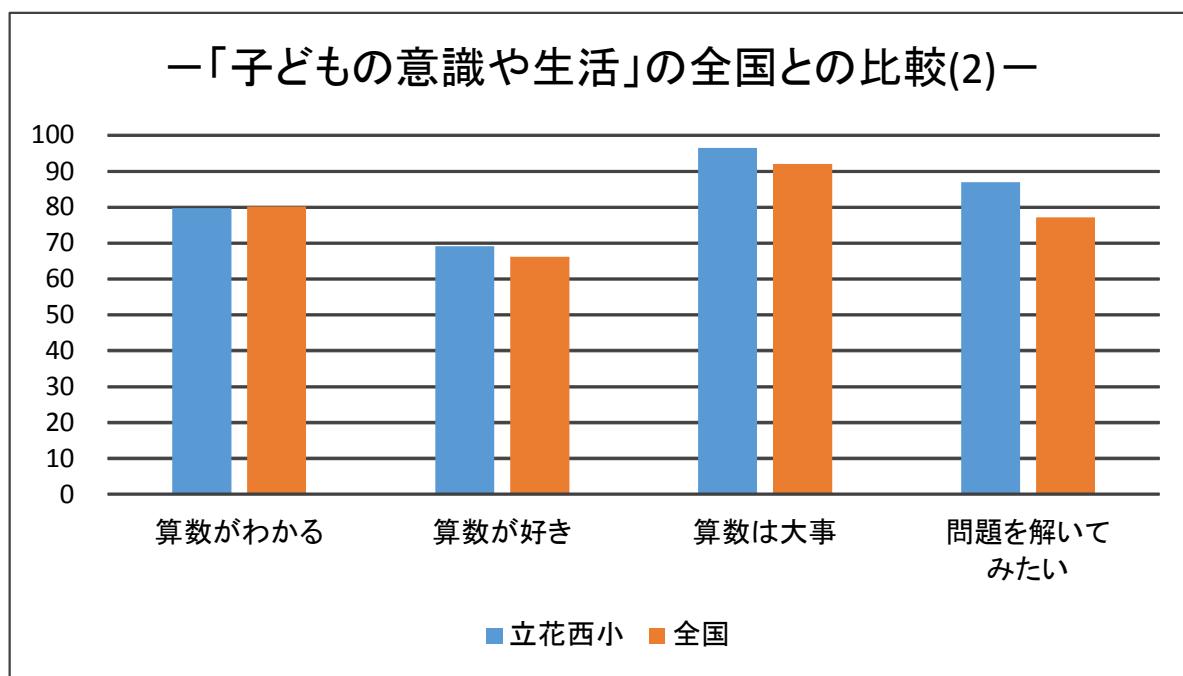
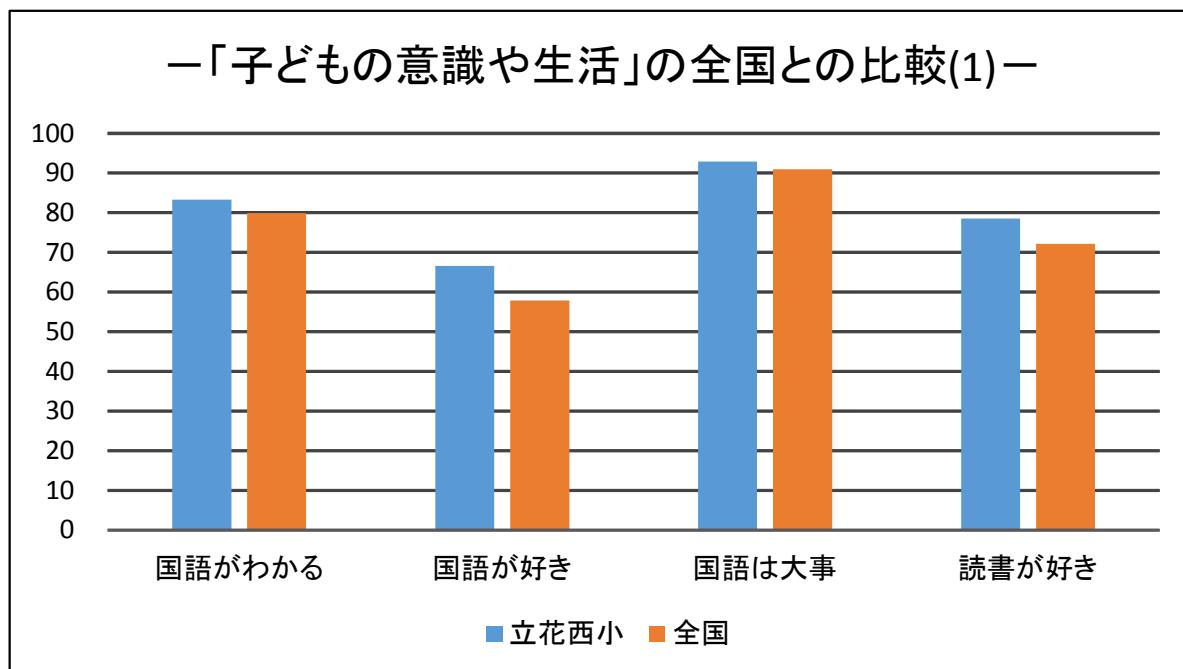
【算数 A】設問別では、ほとんどの設問で全国を上回っています。「四則計算」においては、4.6 ~ 22.7 ポイント、「台形の面積」では 18.6 ポイントと大きく上回っています。反対に「概数」と「1a の面積」で若干下回っています。

【算数 B】設問別では、ほとんどの設問で全国を上回っています。「平均を求める式」と「比例」で 7.7 ポイント、「グラフの読み取り」で 7.2 ポイント上回っています。

全国と比較して大きく下回っている設問はありませんが、ところどころで下回っている設問や、無解答の設問があるため、今後そのあたりに注意して指導を続ける必要があります。

3 質問紙調査について

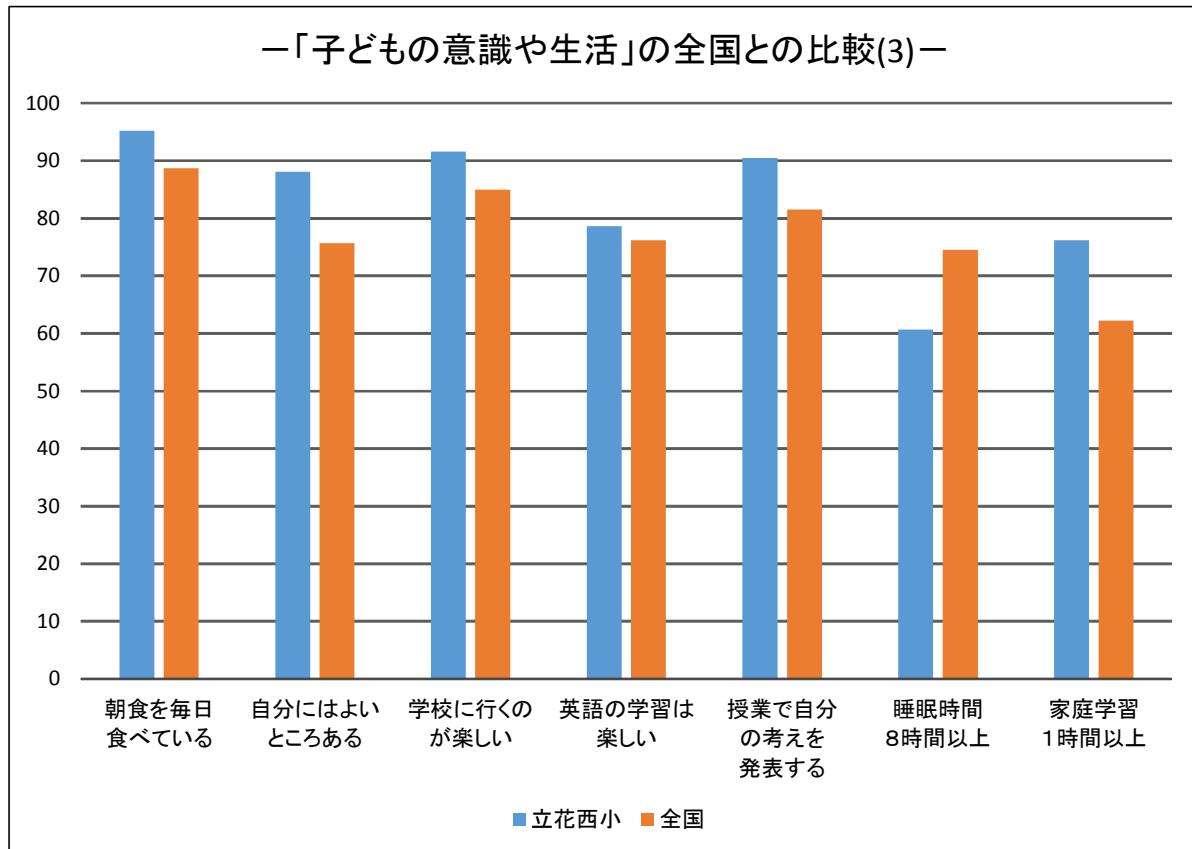
下のグラフは、児童が学校や家庭でのようすについて、項目に答えた割合（%）を表したものです。学力については、国語も算数も全国を上回っています。



このことは「教科が好き」、「授業がわかる」ことに大いに関係あることでしょう。国語に関して見れば、特に「国語が好き」、「読書が好き」という児童の割合が高く、国語が「よくわかる」という児童だけで比較すると、全国より 10 ポイント以上高くなります。本校では、6 年前より研究教科を国語科として校内研究を進めているため、そのよい影響が表れているといえるでしょう。

算数については、「わかる」の割合は全国とほぼ同じですが、「算数が好き」、「算

数は大事」であると考えている児童が全国を上回っており、新しい問題を見たとき「問題を解いてみたい」と考える、積極性のある児童が多いことが目立ちます。このように、児童の学習に対する意欲を大切にして、一人ひとりに自信を持たせられるよう指導していきたいと考えています。



家庭生活との関連では、「朝食を食べる」、「睡眠時間の確保」など生活習慣が学力と関係があると言われていますが、本校では、「朝食を毎日食べている」児童がほとんどで、「自分にはよいところがある」と自尊感情も高く、楽しく学校生活を送っていることがわかります。また、家庭学習（塾なども含む）の時間がしっかりと確保されている家庭が多いようです。その中で少し気になるのが睡眠時間の短さです。高学年になるほど睡眠時間が短くなる傾向ですが、「毎日の生活点検表」で調べると、低学年から睡眠時間の短い児童が少なくありません。ゲームなどに夢中になる年代ではありますが、健康のためにも早寝早起きが大切だと考えます。

また、1年生から2年生にかけて、「宿題を毎日する」児童の割合が僅かに減り、「宿題を全くしない」割合が僅かに増えています。その原因の一つに、親子ともに学校生活に慣れてしまうことが挙げられます。家庭学習の習慣をつけさせるためには、中学年の時期をどう過ごすかが大切なのです。

今後とも、学校と家庭と地域でしっかりと連携して、児童の学力を高め、健全に育っていくため、ご理解とご協力をよろしくお願いいたします。

何年生から宿題をしなくなるのか？

学年	24年度		25年度	
	2学期 (%)	毎日・3~4日	2学期	毎日・3~4日
1年	95	5	98	2
2年	94	6	92(-3)	8(+3)
3年	92	8	87(-7) ↓	13(+7) ↑
4年	81	19	87(-5) ↓	13(+5) ↑
5年	91	9	80(-1) →	20(+1) →
6年	50	50	90(-1) →	10(+1) →

生活点検チェック表より

(1) 支援体制を充実する

今年度の「全国学力・学習状況調査」及び「毎日の生活点検表」の結果から見えてきた本校児童の弱い点を克服し、さらなる学力向上をめざすため、低学年には心の教育特別支援員を中心に指導における支援や補助を行っていきます。中学年には、家庭学習の習慣化を図るために「放課後学習」を開設。高学年には、新学習システムの教員を配置し、算数の少人数指導や理科・社会などで教科担任制をとるなど、指導方法の工夫や充実を図り、分かる授業の実現に努めてまいります。

(2) 学習意欲を高める

今年度も「学年×10分」の家庭学習を課し、家庭学習の習慣化を進めてきました。かなり定着し、学力向上に寄与しているため、来年度も引き続き実施していきます。さらに、実物投影機、タブレット端末などのICT機器を活用し、映像や写真を効果的に提示するなど、児童の学習意欲を高めるための授業改善を図ってまいります。

(3) 学力補充の機会を確保する

毎週木曜日を学力補充の日とし、各学級で担任による学力補充を行ったり、放課後学習指導員を配置して家庭学習の支援（中学年）を行ったりしてきました。放課後学習には参加児童の出席率が高く、家庭学習の定着に一定以上の成果を上げています。来年度も中学年を対象にして、放課後学習を引き続き実施していきたいと考えています。

5 学習の様子

<p>ICTと従来のメディア(黒板など)の併用</p> <p>1年</p> <p>変化する情報 残しておく情報</p> <p>現状では、変化していく情報と記録として残しておく情報をメディアの特性で使い分けていくことが大切です。やはり、板書は1時間の授業の流れを俯瞰できるよう、本授業のように、きちんと残しておくべきでしょう。</p> <p>また、本校の研究テーマに迫るために「書くこと」を意識させるために、書いたものを読むとともに、実物投影機で拡大して見せることが大事ではないでしょうか。内容とともに文字の美しさ、形式的な表現の美しさなども学ぶ「まねぶ」ことができます。</p>	<p>インタビューの練習でICT活用</p> <p>2年</p> <p>タブレット(iPad)で撮影</p> <p>大型ディスプレイで再生</p>
<p>3年 全体での交流(ICT活用)</p> <p>発表者も聞き手を意識して前を向いて発表</p> <p>大切な部分は指し棒で示す</p> <p>すごくよい姿勢で、前に集中</p>	<p>マップから組み立てシートへのスムーズな移行</p> <p>4年</p> <p>大型ディスプレイで拡大表示</p> <p>市の感想文集から朗読</p> <p>あらすじ派が多数</p> <p>②から書きます。 なぜかと言うと…</p> <p>いい答えは一つだけじゃな まだあるよ ④もあるよ。</p> <p>工へ、 うそやん！</p> <p>なるほど</p> <p>みんなの参考にするんや</p> <p>あらすじ派が多い</p> <p>1時間の授業の流れ</p> <p>4年生の学年研究の流れ</p>
<p>5年生の実践をとおして</p> <ul style="list-style-type: none"> 「メタ認知」のためのふり返りがきちんとできています。 <p>伝え合い・連携</p> <p>リフレクション</p> <p>効果的書くに手とてき</p> <p>相手意識</p> <p>必然性</p> <p>問題意識</p> <p>説得力のある文章表現</p> <p>クリティカルリーディング</p> <p>PISA型解説力</p>	<p>見出し(キャッチコピー)の分類</p> <p>6年</p> <p>語を踏む</p> <p>一回読み直す</p> <p>本筋の筋道</p> <p>話を聞く</p> <p>子たちの意見</p> <p>一生懸命分類</p> <p>先生のいいね</p> <p>方もよかったです。</p> <p>カードの使い方</p> <p>動機付け</p> <p>みだしの工夫</p> <p>ひきつけたい? つづけよう?</p> <p>五年生が見たい? つづけよう?</p>
<p>保健 提示資料の工夫について</p> <p>保健</p> <p>資料が豊富で、子ども達のテキストと同じものが提示されているため、とてもわかりやすい進行の授業でした。</p>	<p>生き生きとした子どもの活動</p> <p>図工</p>

